

「自然の保護と利用に関する世論調査」の要旨

平成18年9月
内閣府政府広報室

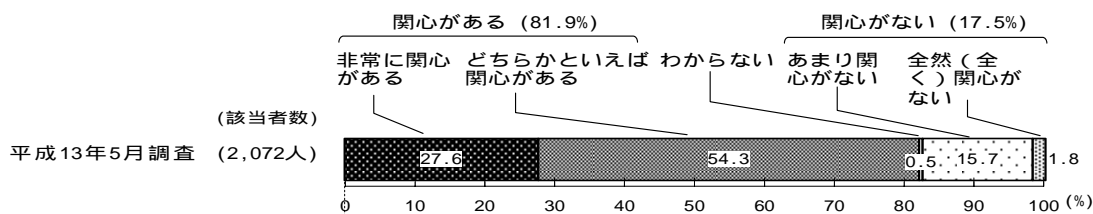
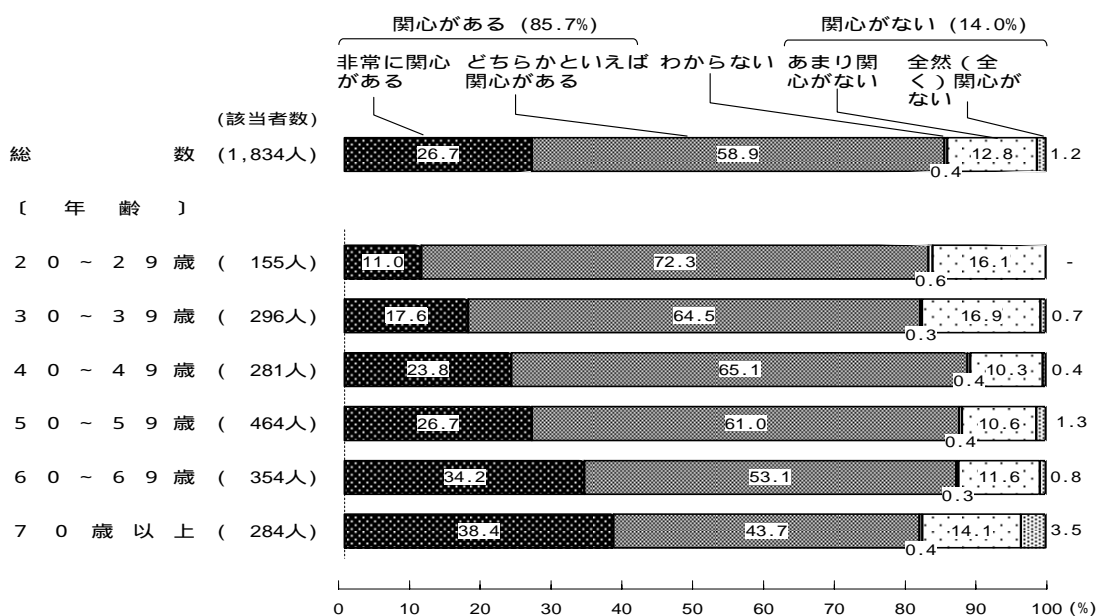
[平成18年6月実施,全国20歳以上の者3,000人,有効回収数1,834人,回収率61.1%]

過去の調査は、調査対象者に内閣府名を提示しないで実施しているため、比較には注意を要する。

1 自然に関する意識

(1) 自然への関心

	(平成13年5月)	平成18年6月
・関心がある(小計)	(81.9%)	85.7%
非常に関心がある	(27.6%)	26.7%
どちらかといえば関心がある	(54.3%)	58.9%
・関心がない(小計)	(17.5%)	14.0%
あまり関心がない	(15.7%)	12.8%
全然(全く)関心がない	(1.8%)	1.2%

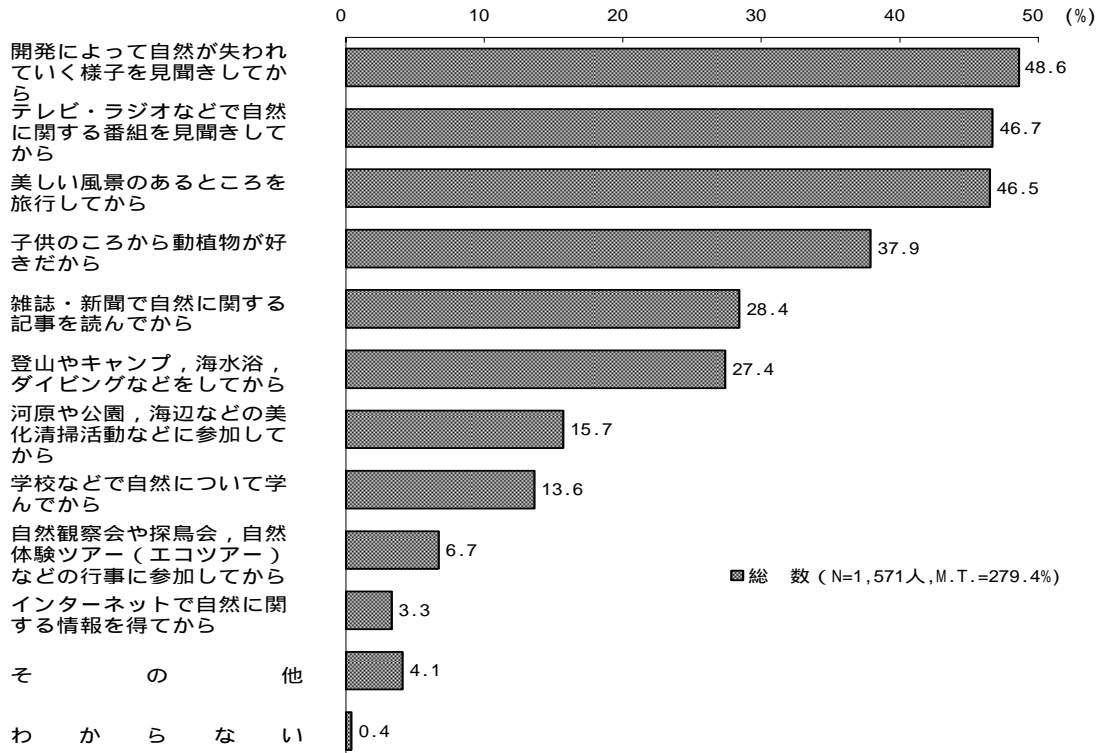


(2) 関心を持つようになった理由（自然に「関心がある」とする者
（1,571人）に複数回答，上位4項目）

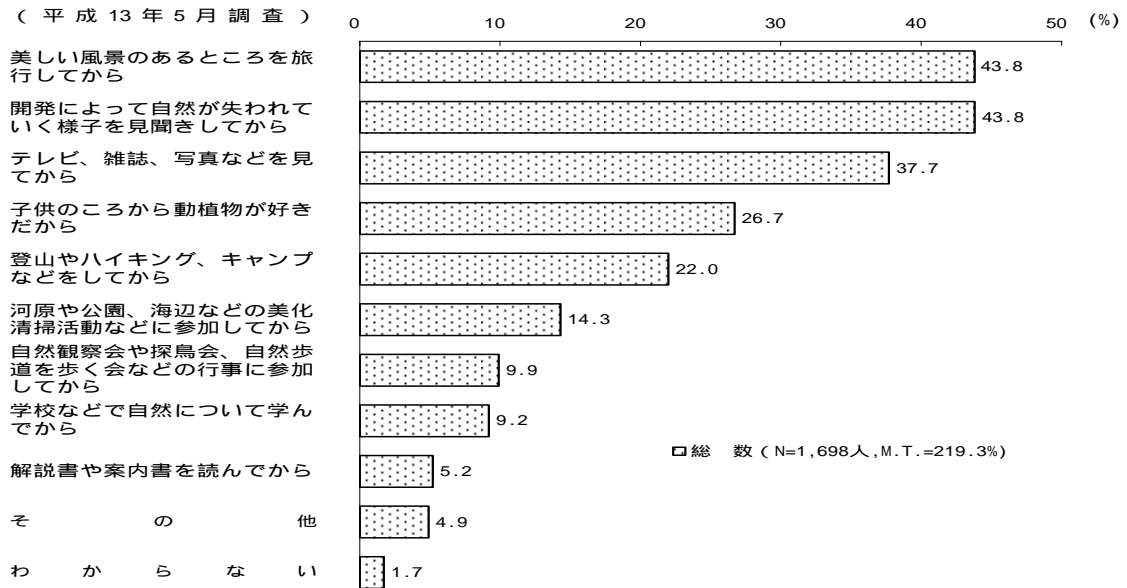
(平成 13 年 5 月)

平成 18 年 6 月

- ・開発によって自然が失われていく様子を見聞きしてから (43.8%) 48.6%
- ・テレビ・ラジオなどで自然に関する番組を見聞きしてから () 46.7%
- ・美しい風景のあるところを旅行してから (43.8%) 46.5%
- ・子供のころから動植物が好きだから (26.7%) 37.9%



(平成 13 年 5 月 調 査)



(3) 自然とふれあう機会

(平成 8 年 11 月)

平成 18 年 6 月

・増やしたいと思う(小計)

(63.7%)

72.7%

大いに増やしたいと思う

(31.3%)

33.3%

もう少し増やしたいと思う

(32.5%)

39.4%

・今くらいでよいと思う

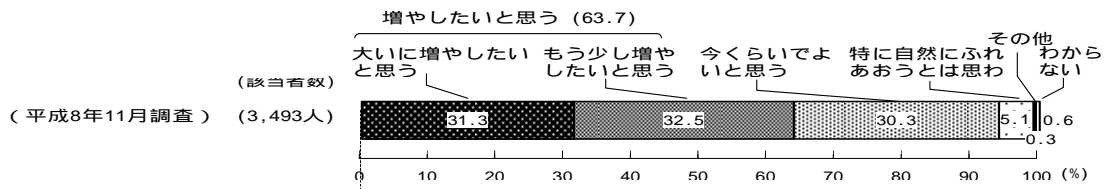
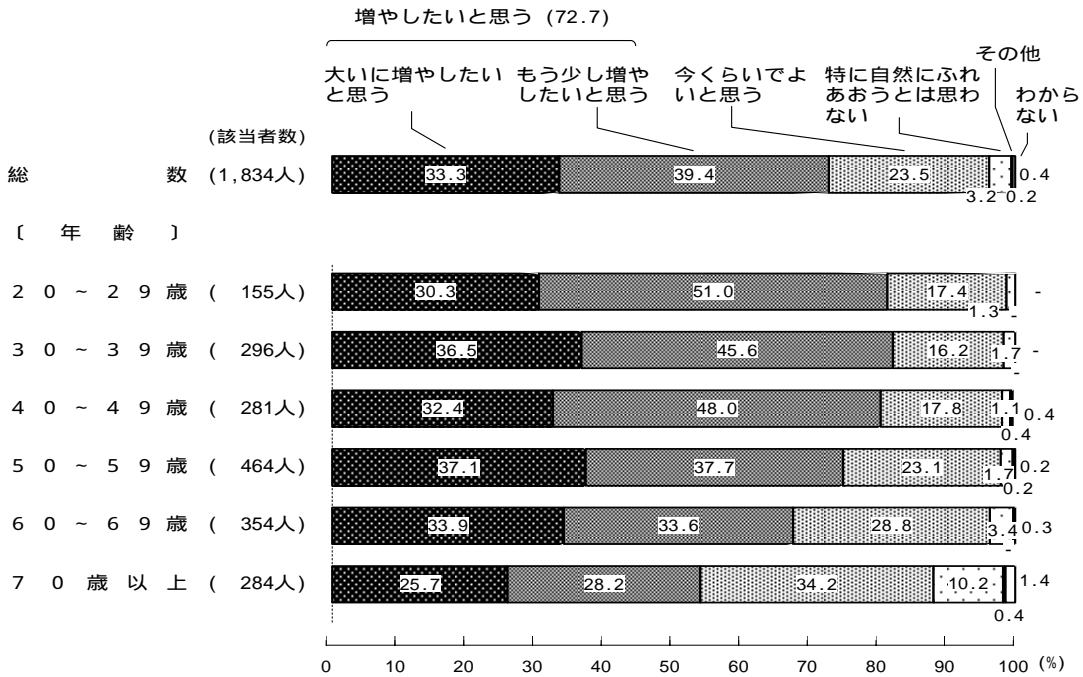
(30.3%)

23.5%

・特に自然とふれあおうとは思わない

(5.1%)

3.2%

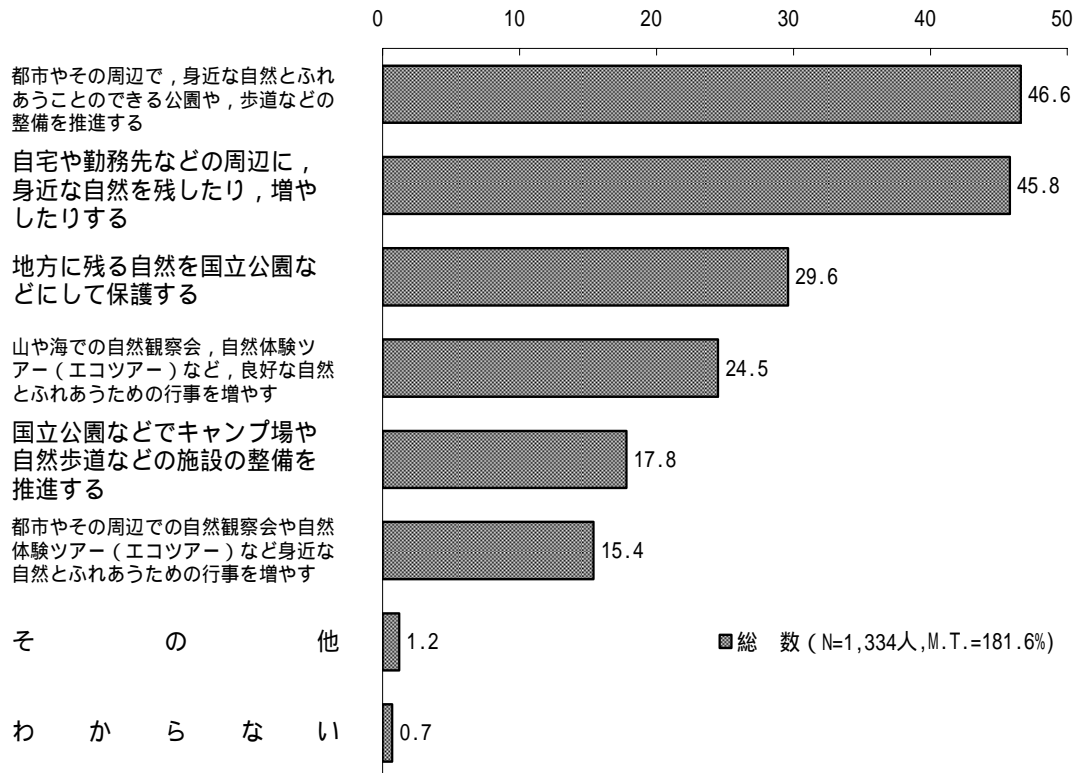


(4) 機会を増やす方法（自然とふれあう機会を「増やしたいと思う」とする者（1,334人）に2つまでの複数回答，上位4項目）

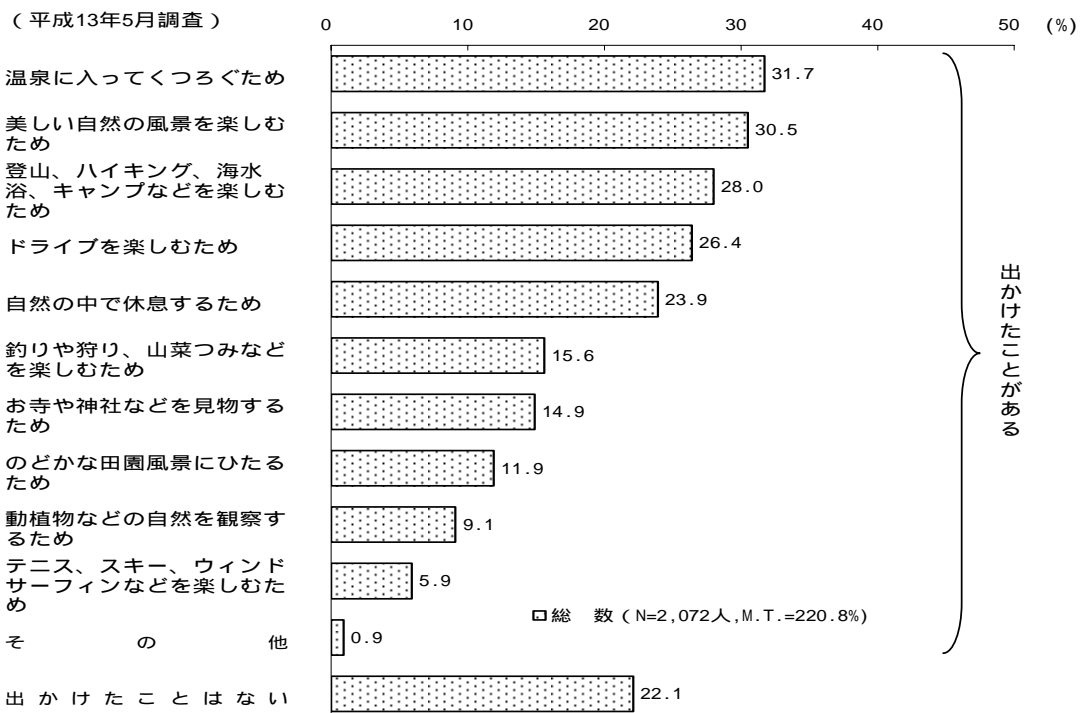
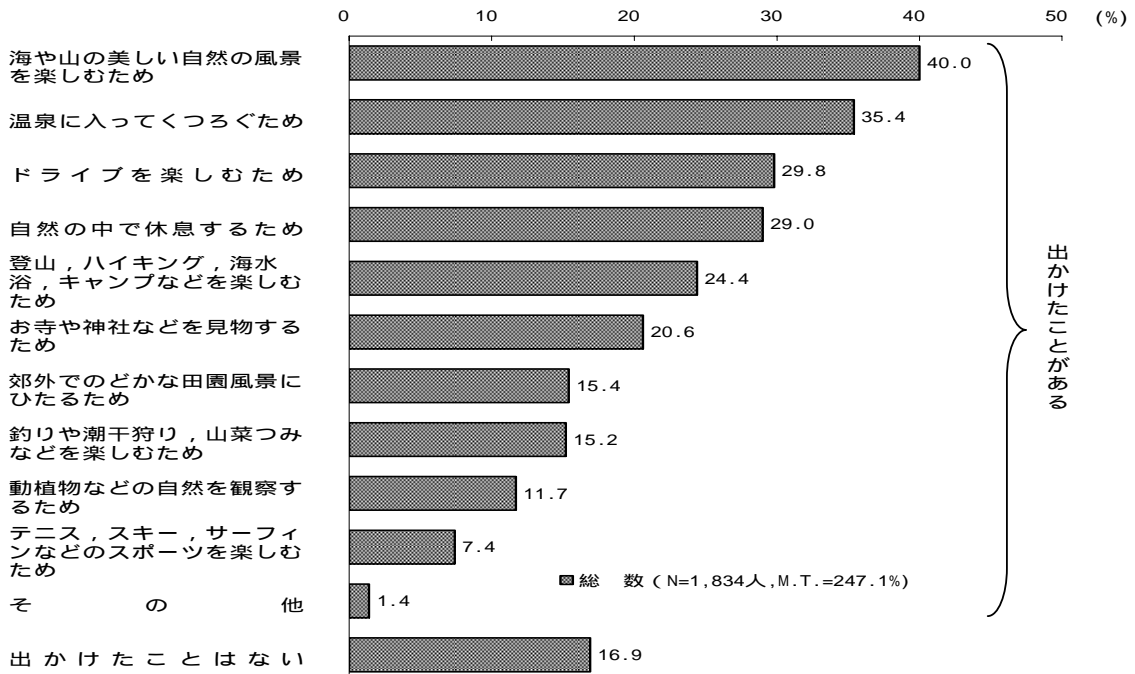
平成18年6月

- ・都市やその周辺で，身近な自然とふれあうことのできる公園や，歩道などの整備を推進する 46.6%
- ・自宅や勤務先などの周辺に，身近な自然を残したり，増やしたりする 45.8%
- ・地方に残る自然を国立公園などにして保護する 29.6%
- ・山や海での自然観察会，自然体験ツアー（エコツアー）など，良好な自然とふれあうための行事を増やす 24.5%

（2つまでの複数回答）

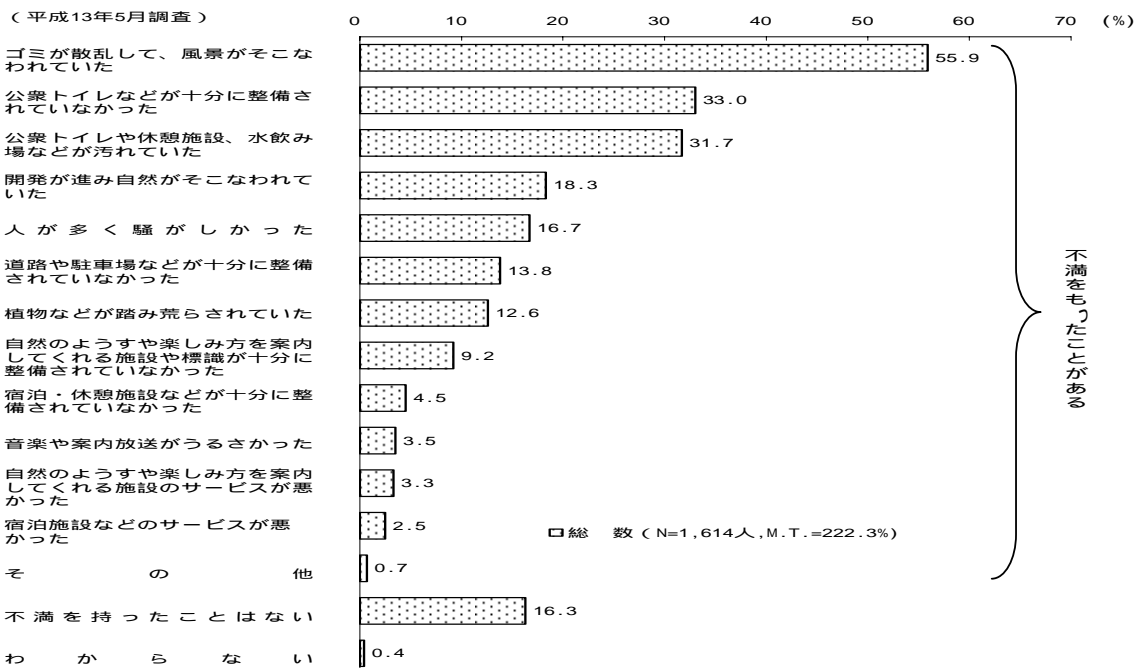
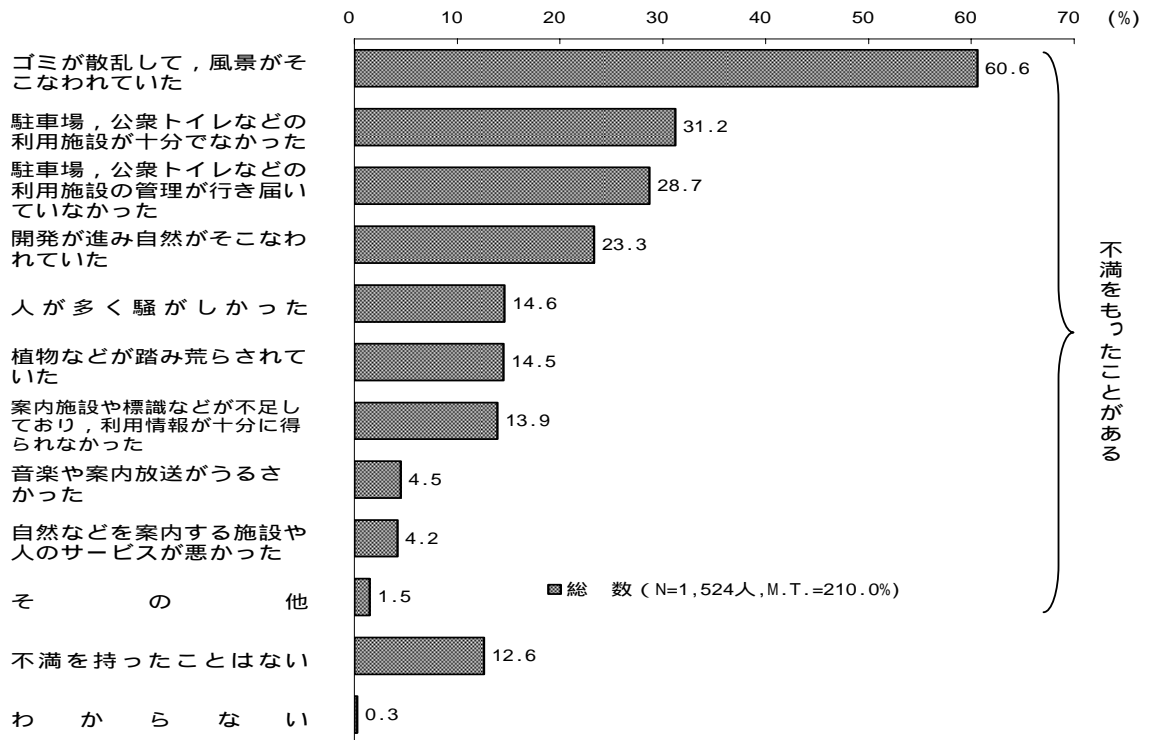


(5) 自然の多いところへ出かけた目的 (複数回答, 上位4項目)	(平成13年5月)	平成18年6月
・海や山の美しい自然の風景を楽しむため	(30.5%)	40.0%
・温泉に入ってくつろぐため	(31.7%)	35.4%
・ドライブを楽しむため	(26.4%)	29.8%
・自然の中で休息するため	(23.9%)	29.0%
出かけたことはない	(22.1%)	16.9%



(6) 自然の多いところへ出かけて不満を持ったこと(「自然の多いところへ出かけたことがある」とする者(1,524人)に複数回答,上位4項目) (平成13年5月) 平成18年6月

・ゴミが散乱して,風景がそこなわれていた	(55.9%)	60.6%
・駐車場,公衆トイレなどの利用施設が十分でなかった	()	31.2%
・駐車場,公衆トイレなどの利用施設の管理が行き届いていなかった	()	28.7%
・開発が進み自然がそこなわれていた	(18.3%)	23.3%
不満をもったことはない	(16.3%)	12.6%



2 自然の保護と対策について

(1) 自然保護について

- ・人間が生活していくために最も重要なこと
- ・人間社会との調和を図りながら進めていくこと
- ・開発の妨げとなる不要なこと

(平成 13 年 5 月)

平成 18 年 6 月

(40.1%)

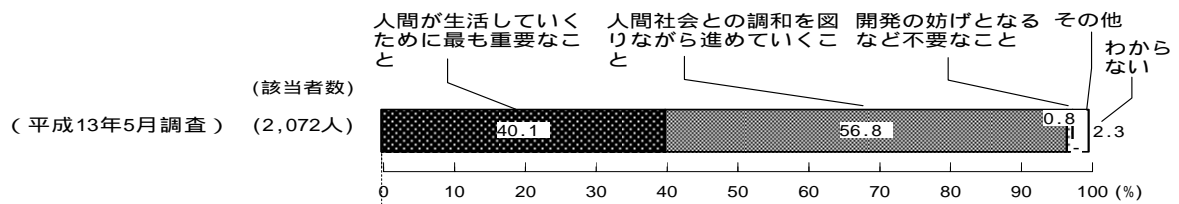
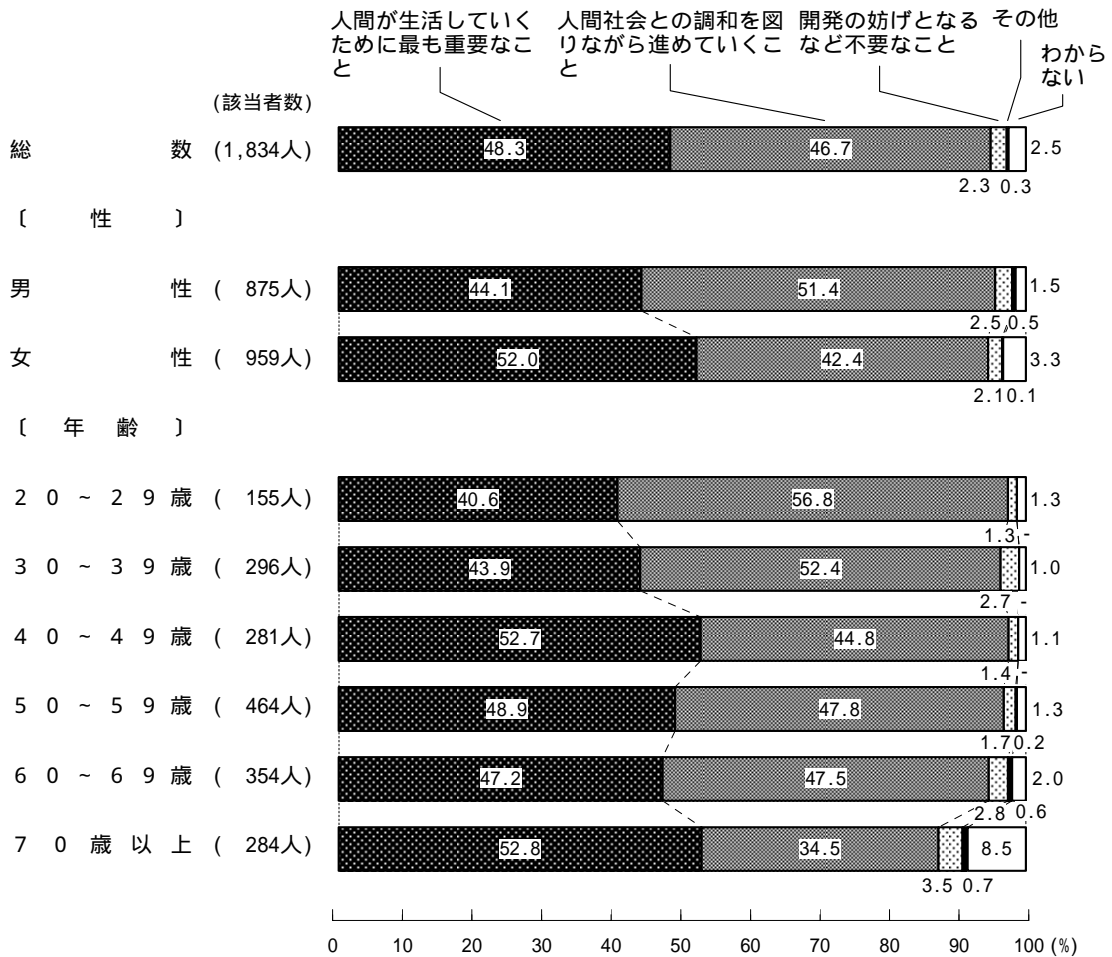
48.3%

(56.8%)

46.7%

(0.8%)

2.3%

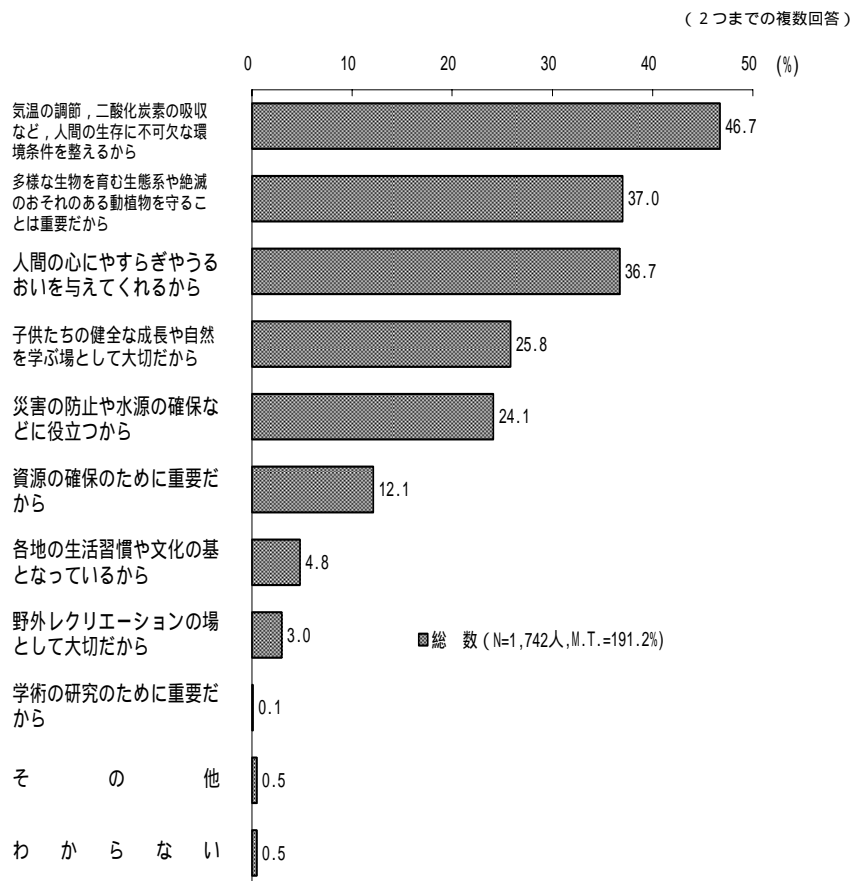


(2) 自然保護が必要な理由

(自然保護について「人間が生活していくために最も重要なこと」、「人間社会との調和を図りながら進めていくこと」と答えた者 (1,742人)に2つまでの複数回答,上位5項目)

平成18年6月

- ・ 気温の調節,二酸化炭素の吸収など,人間の生存に不可欠な環境条件を整えるから 46.7%
- ・ 多様な生物を育む生態系や絶滅のおそれのある動植物を守ることは重要だから 37.0%
- ・ 人間の心にやすらぎやうらおいを与えてくれるから 36.7%
- ・ 子供たちの健全な成長や自然を学ぶ場として大切だから 25.8%
- ・ 災害の防止や水源の確保などに役立つから 24.1%

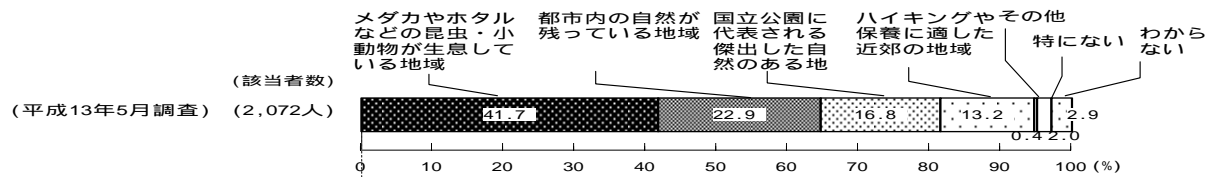
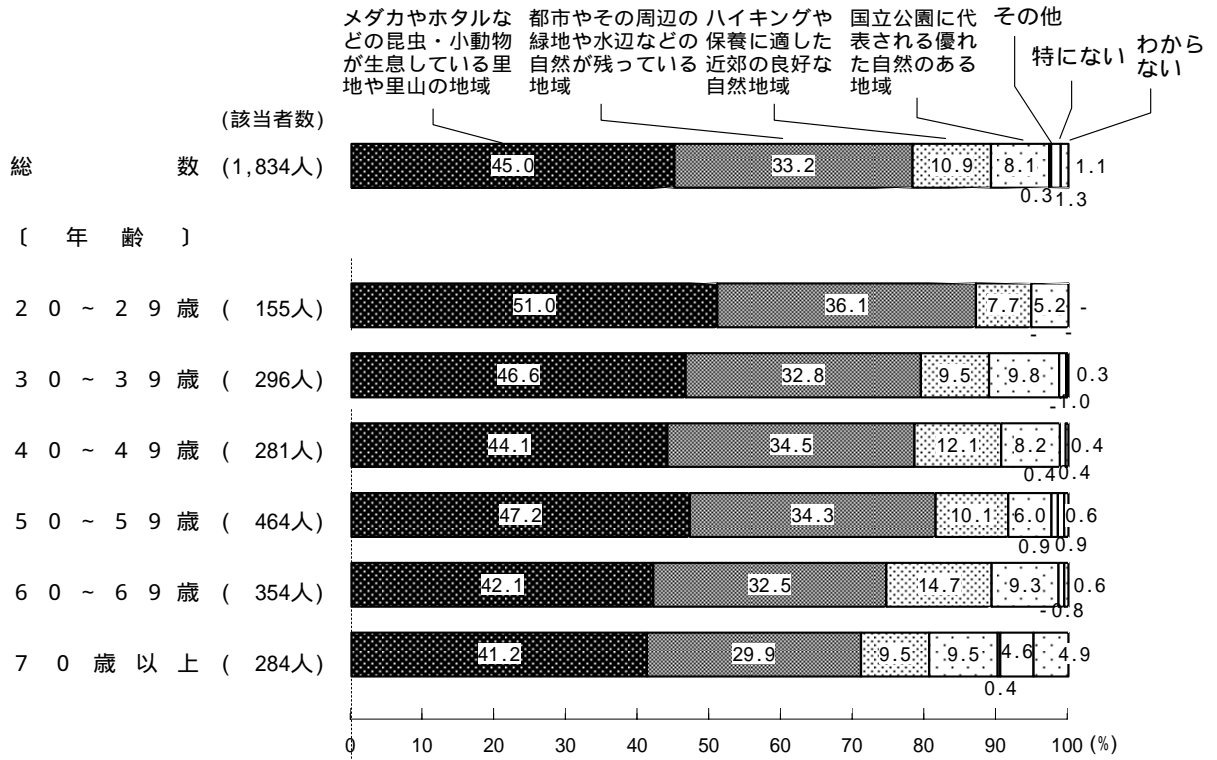


(3) 自然保護に最も力を入れるべき地域

(平成 13 年 5 月)

平成 18 年 6 月

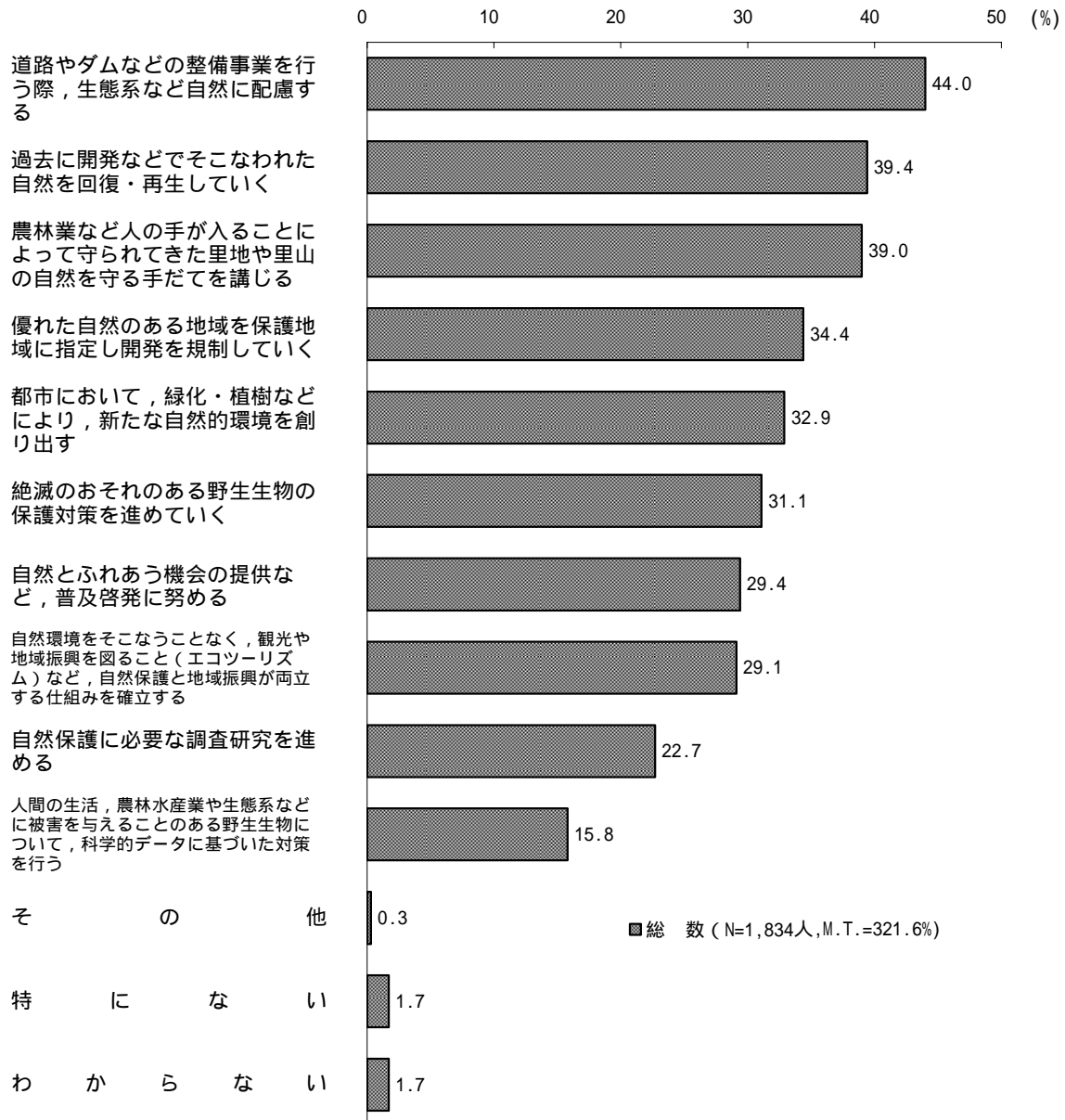
・メダカやホタルなどの昆虫・小動物が生息している里地や里山の地域	(41.7%)	45.0%
・都市やその周辺の緑地や水辺などの自然が残っている地域	(22.9%)	33.2%
・ハイキングや保養に適した近郊の良好な自然地域	(13.2%)	10.9%
・国立公園に代表される優れた自然のある地域	(16.8%)	8.1%



(4) 自然保護のための対策（複数回答，上位3項目）

平成 18 年 6 月

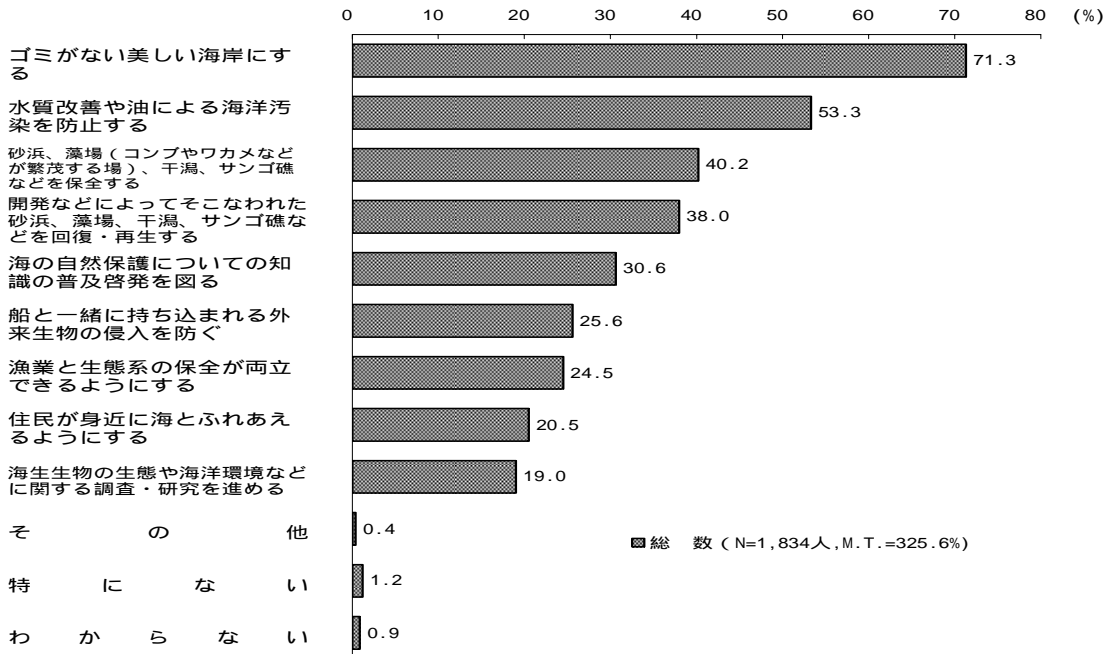
- ・道路やダムなどの整備事業を行う際，生態系など自然に配慮する 44.0%
- ・過去に開発などでそこなわれた自然を回復・再生していく 39.4%
- ・農林業など人の手が入ることによって守られてきた里地や里山の自然を守る手だてを講じる 39.0%



(5) 海や沿岸の自然保護対策（複数回答，上位4項目）

平成 18 年 6 月

- ・ゴミがない美しい海岸にする 71.3%
- ・水質改善や油による海洋汚染を防止する 53.3%
- ・砂浜・藻場（コンブやワカメなどが繁茂する場）、干潟、サンゴ礁などを保全する 40.2%
- ・開発などによってそこなわれた砂浜、藻場、干潟、サンゴ礁などを回復・再生する 38.0%

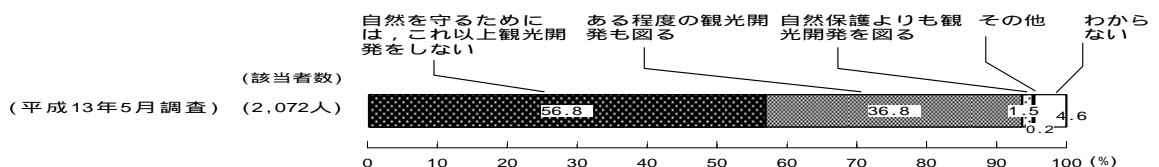
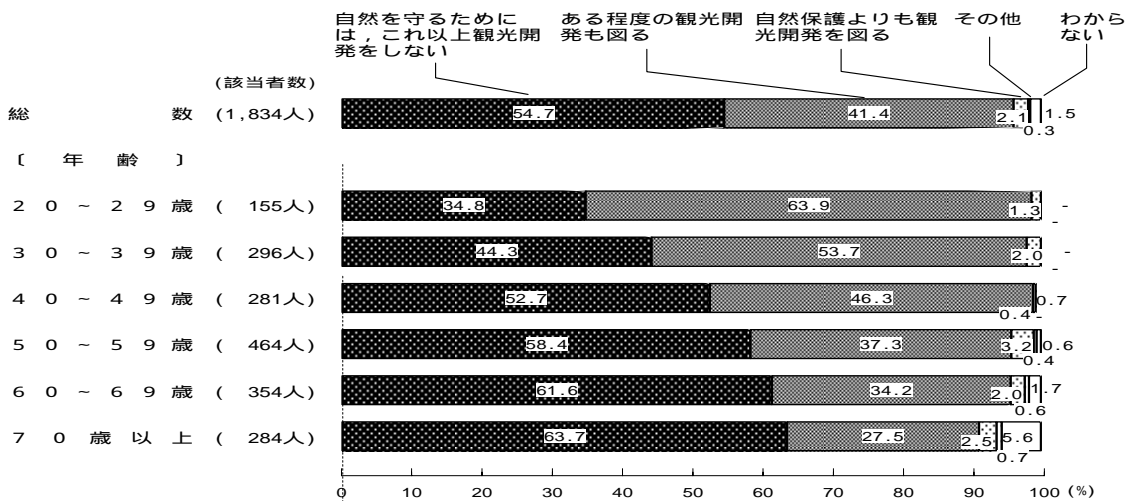


(6) 自然公園の保護と開発について

(平成 13 年 5 月)

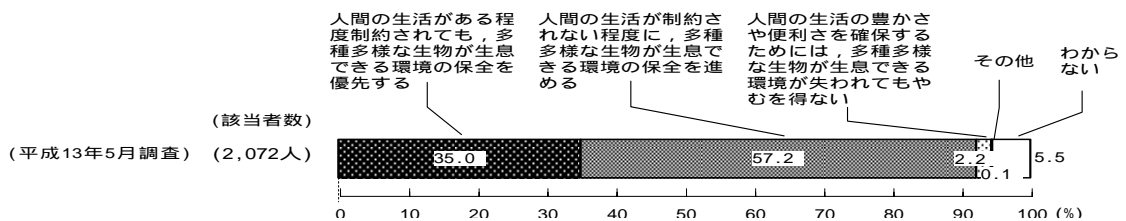
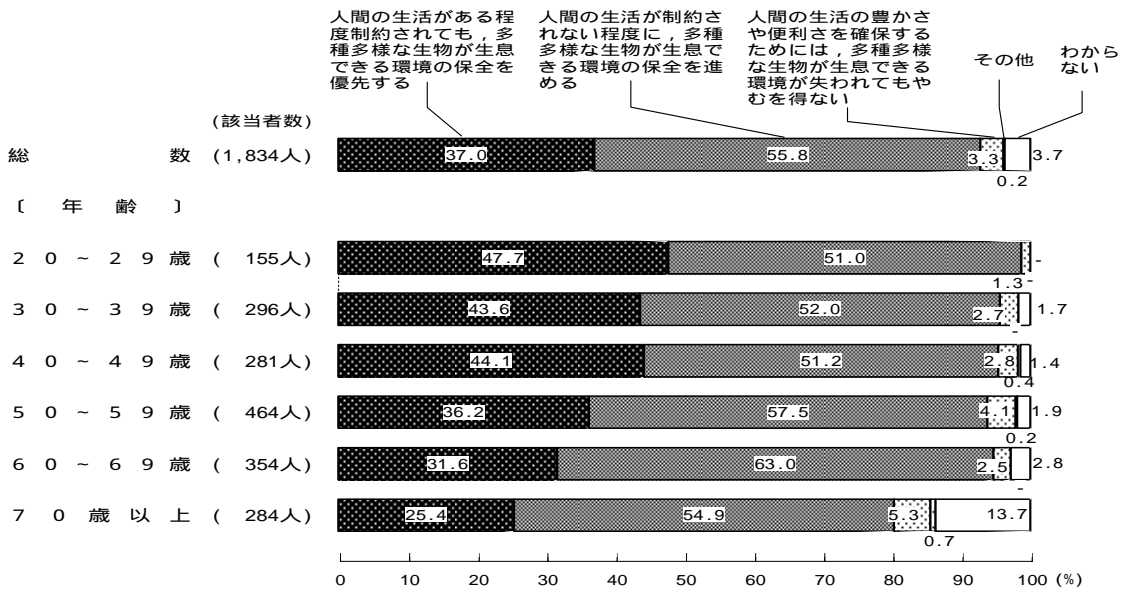
平成 18 年 6 月

- ・自然を守るためには、これ以上観光開発をしない (56.8%) 54.7%
- ・ある程度の観光開発も図る (36.8%) 41.4%
- ・自然保護よりも観光開発を図る (1.5%) 2.1%



3 野生生物の保護と対策について

(1) 多種多様な生物が生息できる環境の保全について	(平成 13 年 5 月)	平成 18 年 6 月
・人間の生活がある程度制約されても、 多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する	(35.0%)	37.0%
・人間の生活が制約されない程度に、 多種多様な生物が生息できる環境の保全を進める	(57.2%)	55.8%
・人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、 多種多様な生物が生息できる環境が失われてもやむを得ない	(2.2%)	3.3%

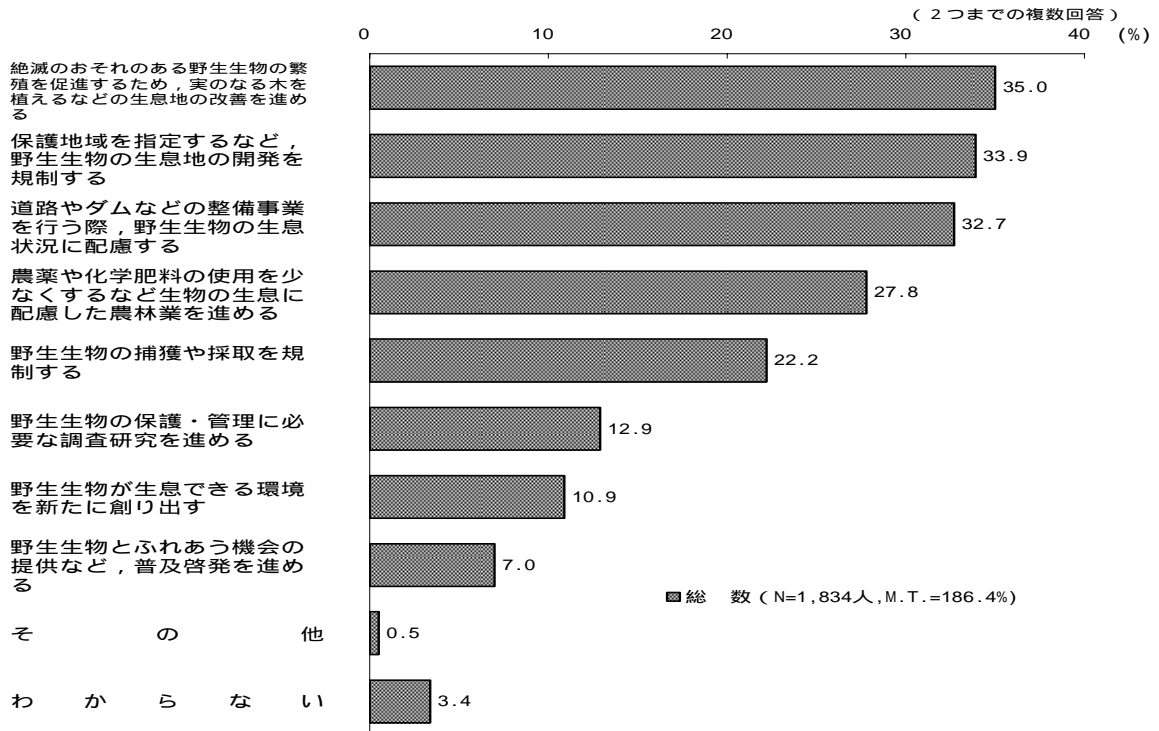


(2) 多種多様な生物が生息できる環境の保全に必要な対策
 (2つまでの複数回答, 上位4項目)

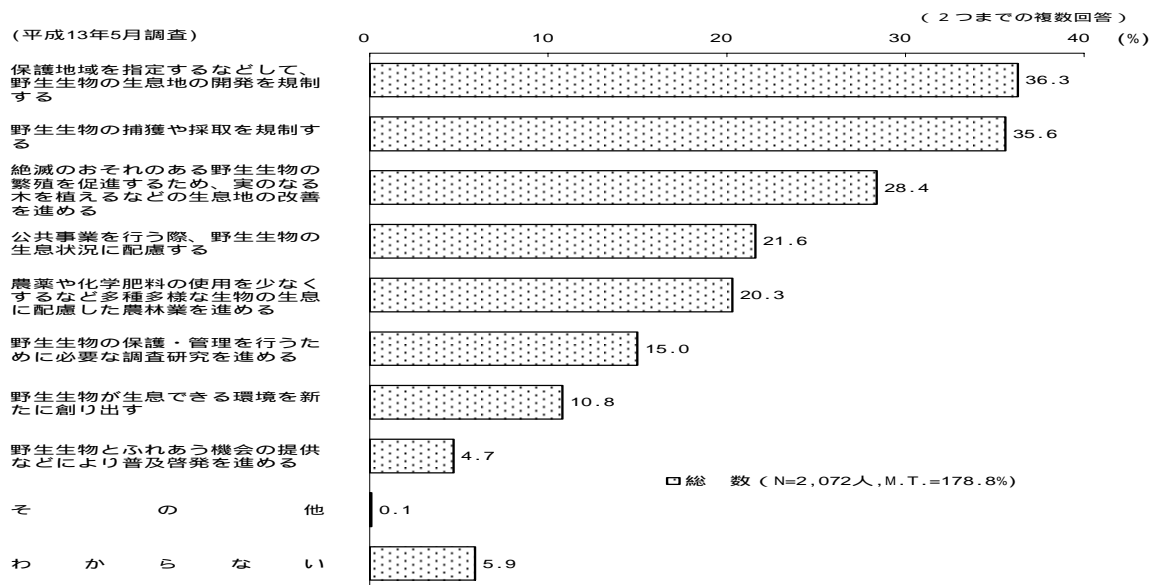
(平成13年5月)

平成18年6月

・絶滅のおそれのある野生生物の繁殖を促進するため、 実のなる木を植えるなどの生息地の改善を進める	(28.4%)	35.0%
・保護地域を指定するなど、野生生物の生息地の開発を規制する	(36.3%)	33.9%
・道路やダムなどの整備事業を行う際、 野生生物の生息状況に配慮する	(21.6%)	32.7%
・農薬や化学肥料の使用を少なくするなど 生物の生息に配慮した農林業を進める	(20.3%)	27.8%



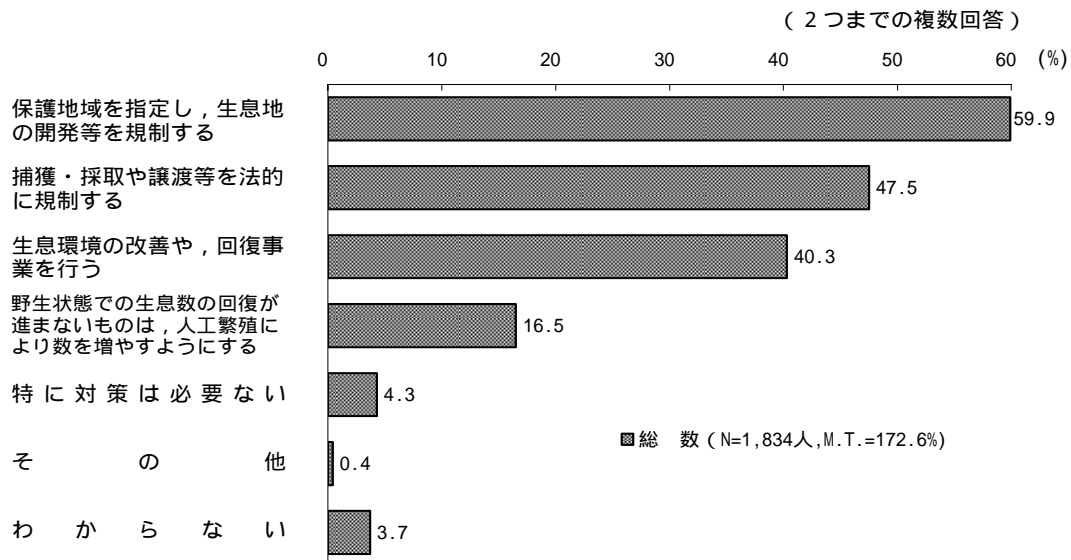
(平成13年5月調査)



(3) 絶滅のおそれのある野生生物の保護対策（2つまでの複数回答，上位4項目）

平成 18 年 6 月

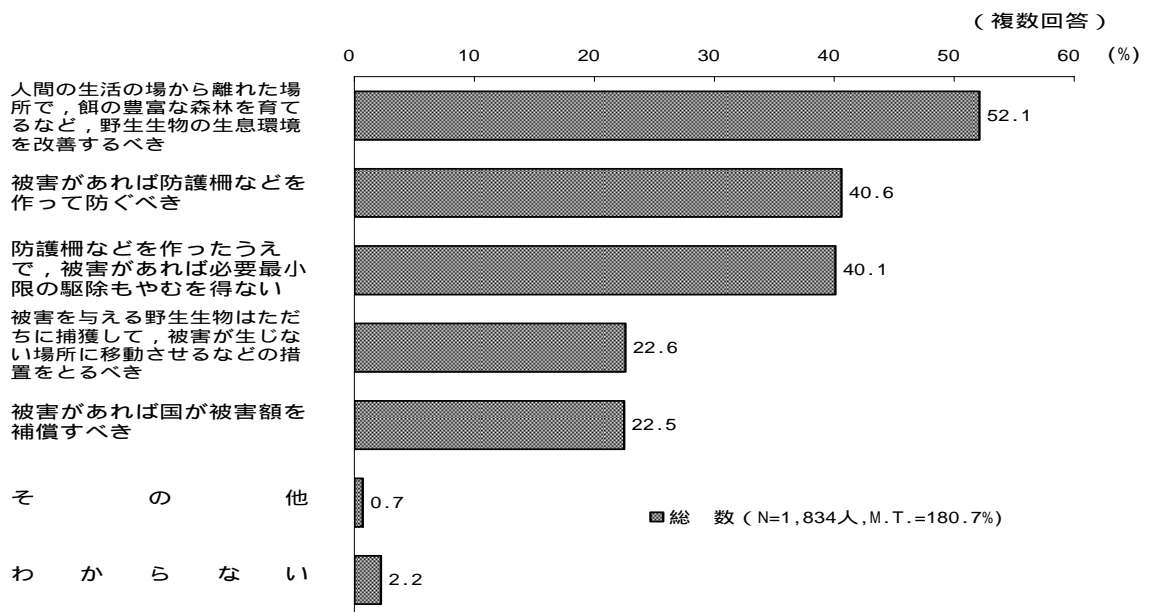
- ・保護地域を指定し，生息地の開発等を規制する 59.9%
- ・捕獲・採取や譲渡等を法的に規制する 47.5%
- ・生息環境の改善や，回復事業を行う 40.3%
- ・野生状態での生息数の回復が進まないものは，人工繁殖により数を増やすようにする 16.5%



(4) 人間生活に被害を与える野生生物への対策（複数回答，上位3項目）

平成 18 年 6 月

- ・人間の生活の場から離れた場所で，餌の豊富な森林を育てるなど，野生生物の生息環境を改善するべき 52.1%
- ・被害があれば防護柵などを作って防ぐべき 40.6%
- ・防護柵などを作ったうえで，被害があれば必要最小限の駆除もやむを得ない 40.1%

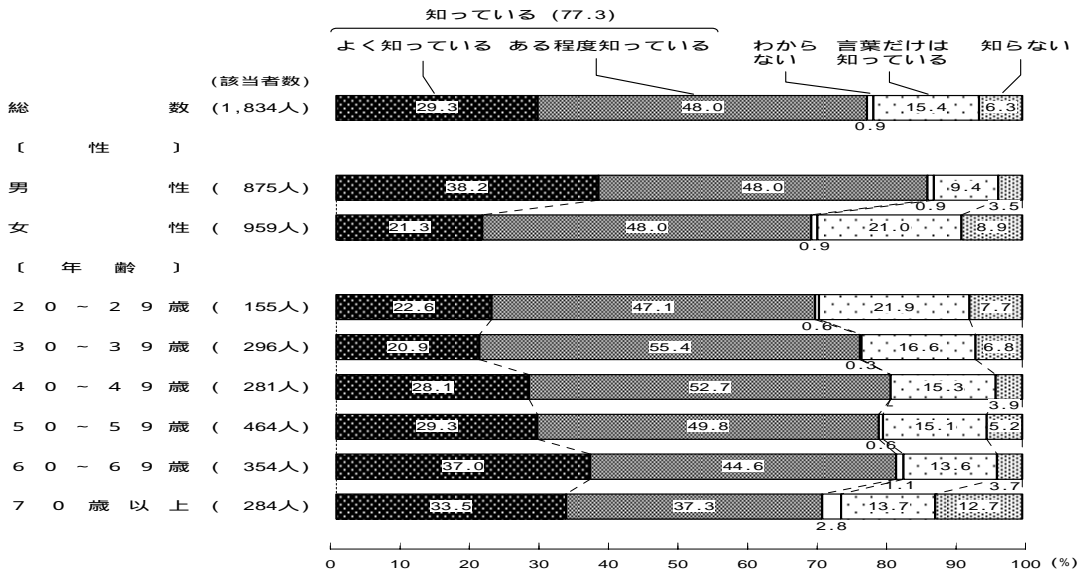


4 外来生物対策について

(1) 外来生物問題の周知度

平成 18 年 6 月

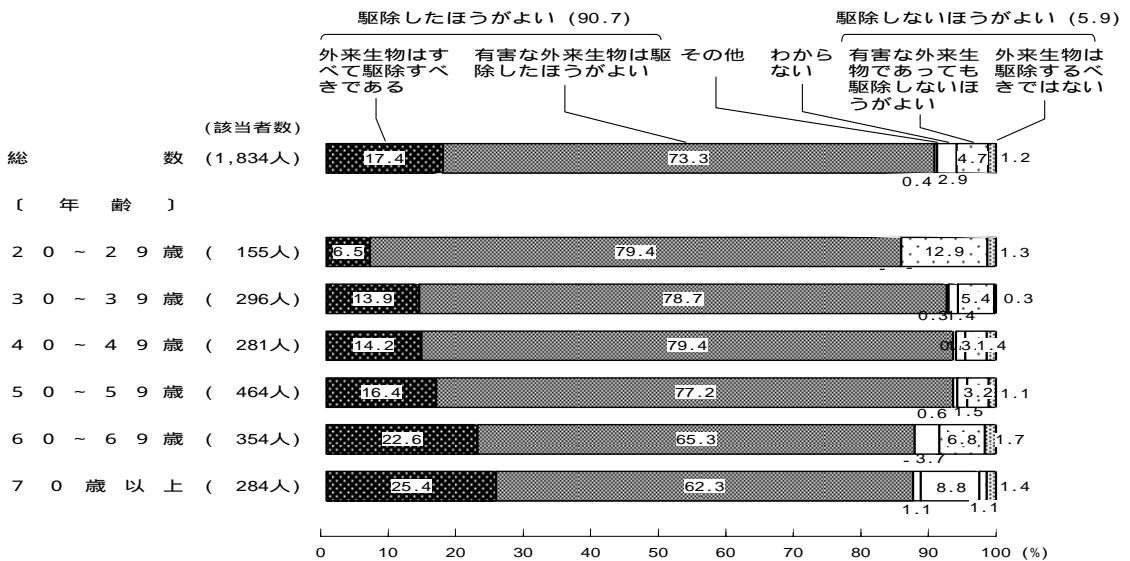
・ <u>知っている (小計)</u>	<u>77.3%</u>
よく知っている	29.3%
ある程度知っている	48.0%
・ <u>言葉だけは知っている</u>	<u>15.4%</u>
・ <u>知らない</u>	<u>6.3%</u>



(2) 外来生物の駆除について

平成 18 年 6 月

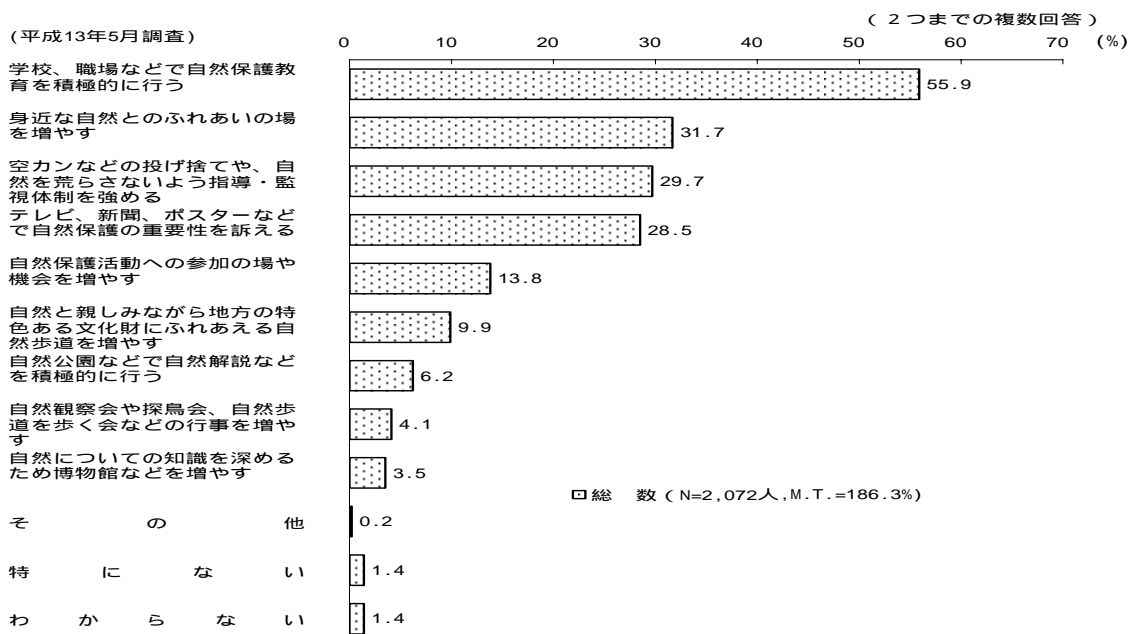
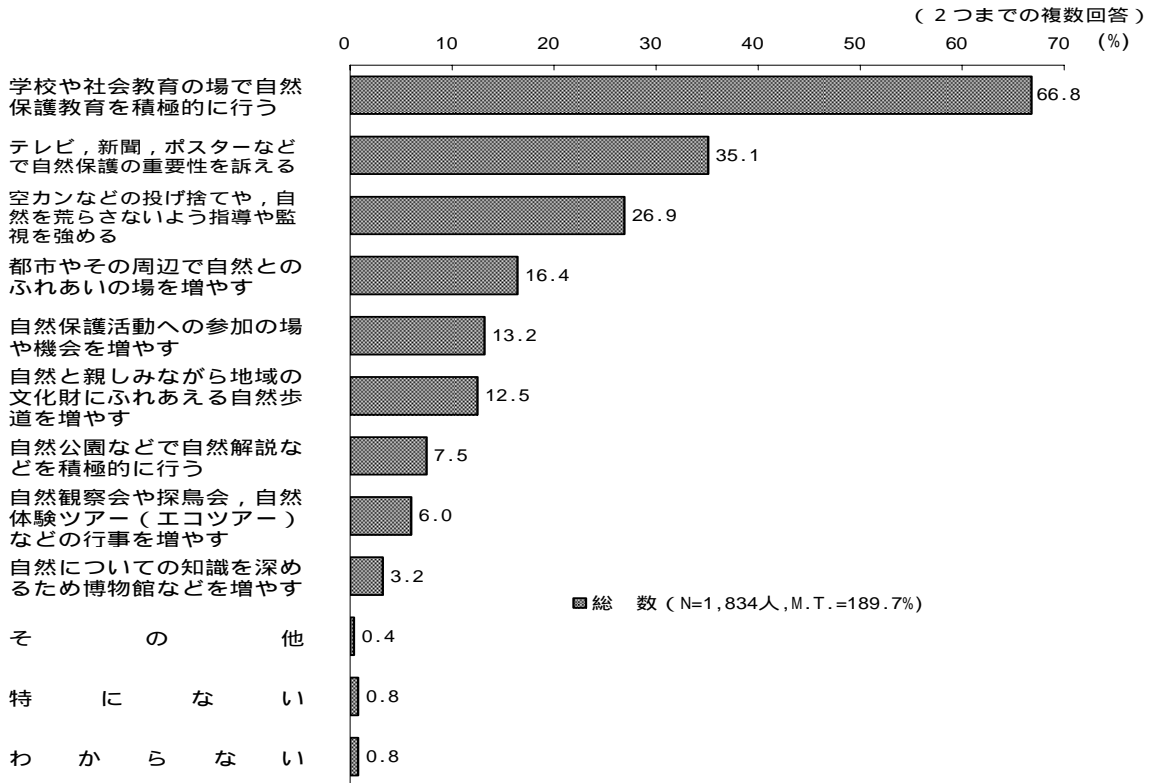
・ <u>駆除したほうがよい (小計)</u>	<u>90.7%</u>
外来生物はすべて駆除すべきである	17.4%
有害な外来生物は駆除したほうがよい	73.3%
・ <u>駆除しないほうがよい (小計)</u>	<u>5.9%</u>
有害な外来生物であっても駆除しないほうがよい	4.7%
外来生物は駆除するべきではない	1.2%



5 自然保護活動について

(1) 自然を大切にする気持ちを深める方法 (2つまでの複数回答, 上位4項目)

	(平成13年5月)	平成18年6月
・学校や社会教育の場で自然保護教育を積極的に行う	(55.9%)	66.8%
・テレビ, 新聞, ポスターなどで自然保護の重要性を訴える	(28.5%)	35.1%
・空カンなどの投げ捨てや, 自然を荒らさないよう指導や監視を強める	(29.7%)	26.9%
・都市やその周辺で自然とのふれあいの場を増やす	(31.3%)	16.4%



(2) 自然保護活動への参加の意向

・参加したい(小計)

ぜひ参加したい

できれば参加したい

・参加したくない(小計)

あまり参加したくない

全然(全く)参加したくない

(平成13年5月)

平成18年6月

(70.5%)

71.0%

(11.8%)

8.5%

(58.7%)

62.5%

(25.2%)

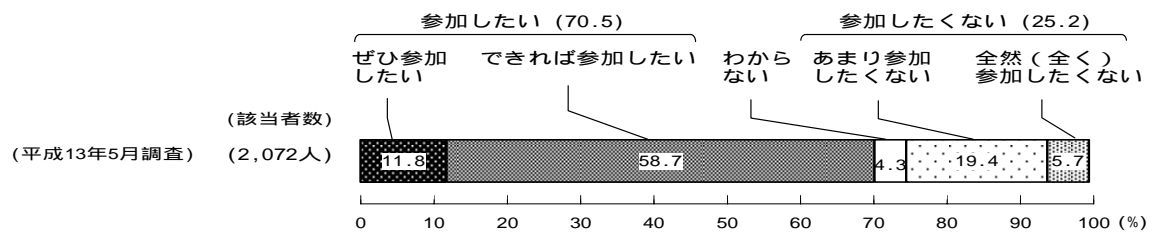
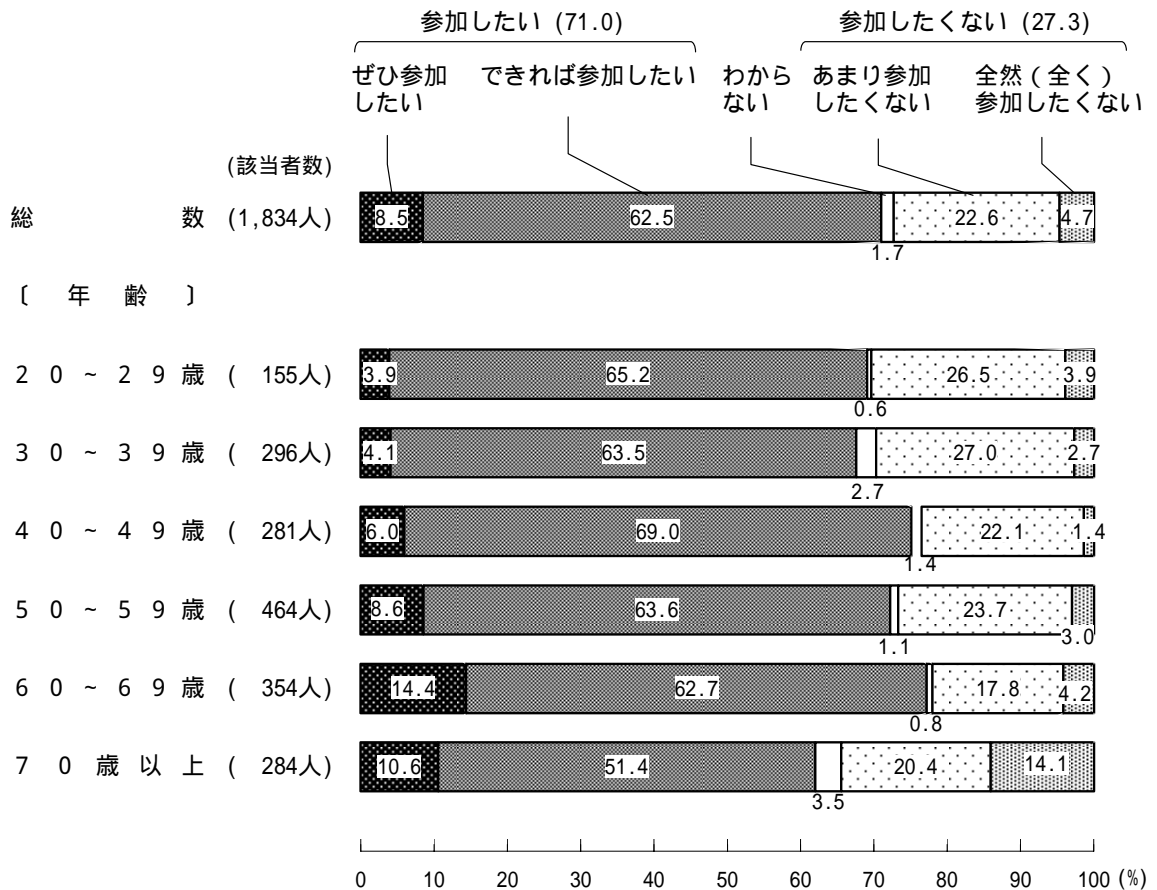
27.3%

(19.4%)

22.6%

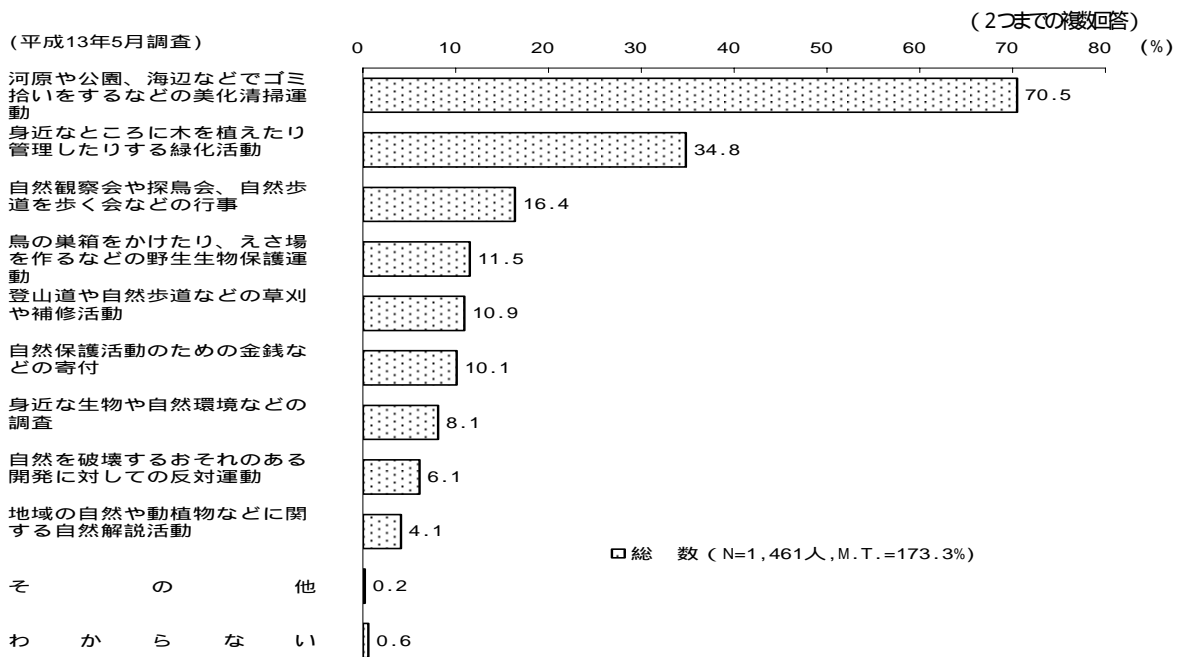
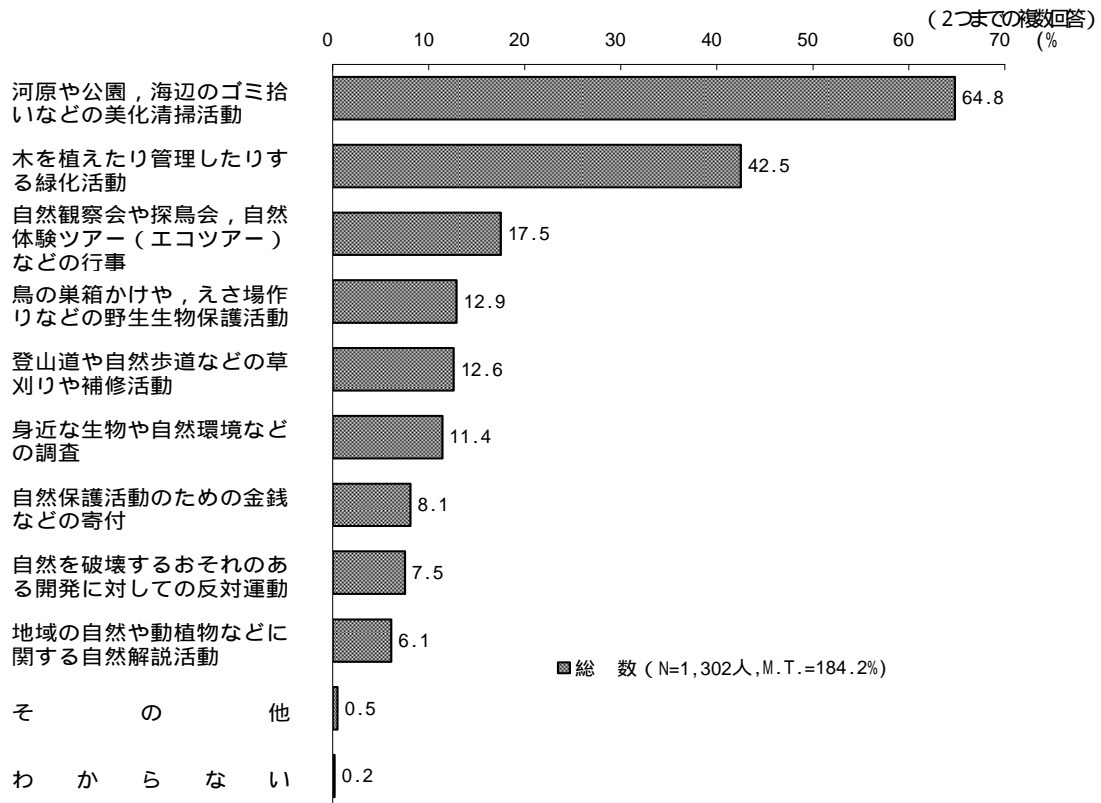
(5.7%)

4.7%



(3) 参加したい自然保護活動（自然保護活動に「参加したい」とする者（1,302人）に
2つまでの複数回答，上位6項目）

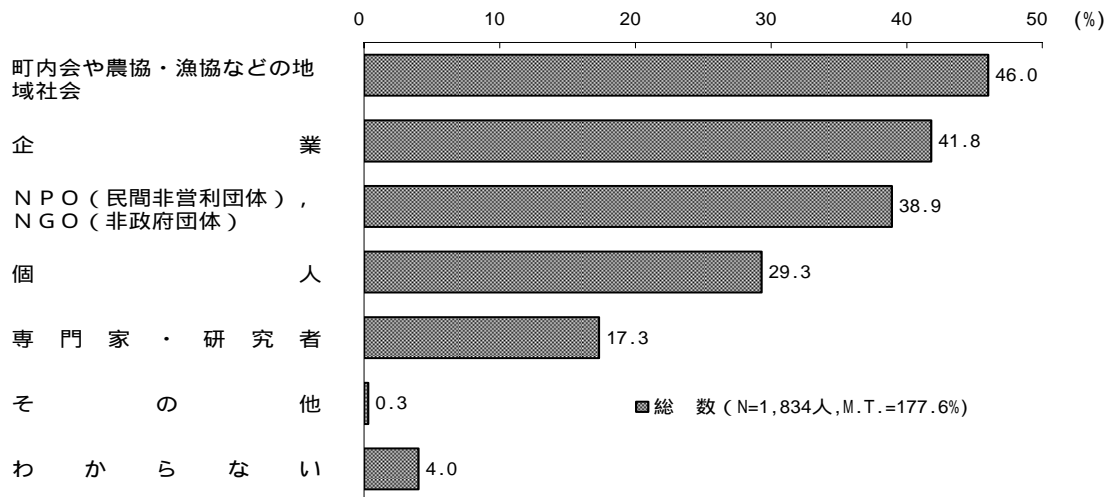
	(平成13年5月)	平成18年6月
・河原や公園，海辺のゴミ拾いなどの美化清掃活動	(70.5%)	64.8%
・木を植えたり管理したりする緑化活動	(34.8%)	42.5%
・自然観察会や探鳥会，自然体験ツアー（エコツアー）などの行事	(16.4%)	17.5%
・鳥の巣箱かけや，えさ場作りなどの野生生物保護活動	(11.5%)	12.9%
・登山道や自然歩道などの草刈りや補修活動	(10.9%)	12.6%
・身近な生物や自然環境などの調査	(8.1%)	11.4%



(4) 自然保護を担うべき主体（2つまでの複数回答，上位4項目）

平成18年6月

・町内会や農協・漁協などの地域社会	46.0%
・企業	41.8%
・NPO（民間非営利団体），NGO（非政府団体）	38.9%
・個人	29.3%

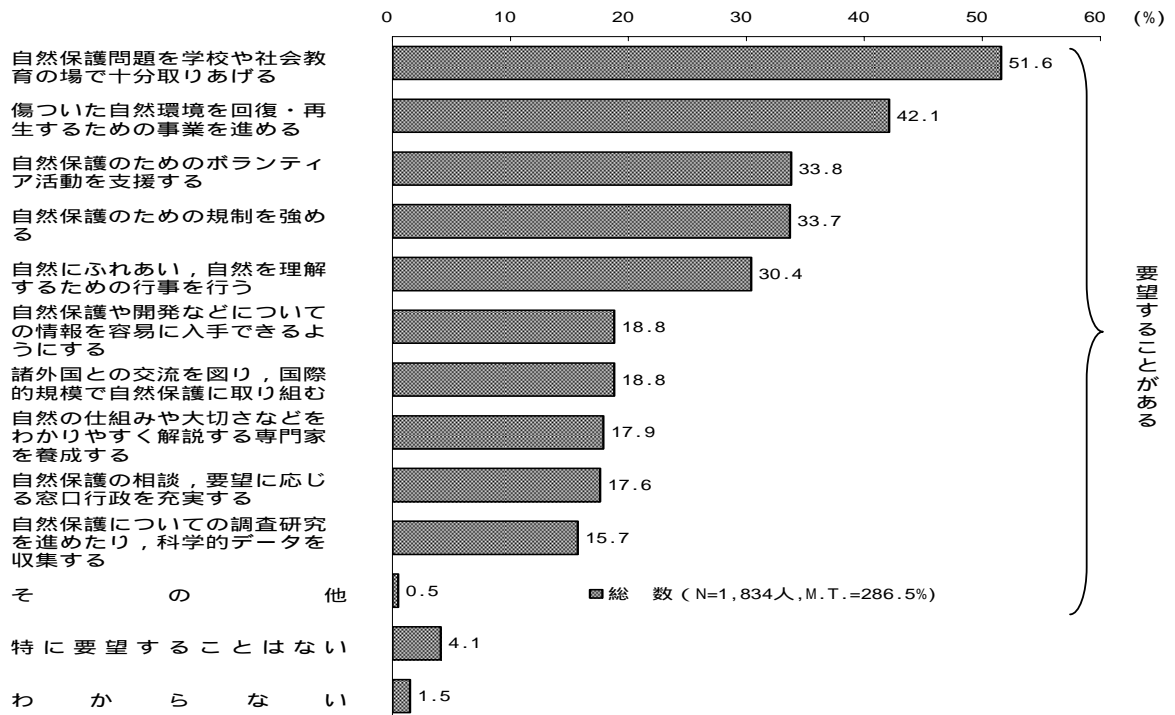


(5) 国や地方公共団体への要望（複数回答，上位5項目）

（平成13年5月）

平成18年6月

・自然保護問題を学校や社会教育の場で十分取りあげる	(41.9%)	51.6%
・傷ついた自然環境を回復・再生するための事業を進める	(25.5%)	42.1%
・自然保護のためのボランティア活動を支援する	(29.9%)	33.8%
・自然保護のための規制を強める	(36.5%)	33.7%
・自然にふれあい，自然を理解するための行事を行う	(26.5%)	30.4%



（平成13年5月調査）

